

小学校高学年における教科担任制 理科 の充実

中核校	厚沢部町立厚沢部小学校	指定校	厚沢部町立館小学校、厚沢部町立鶉小学校 厚沢部町立厚沢部中学校
-----	-------------	-----	------------------------------------

実践前の状況

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査（理科）において、エネルギー領域の正答率が低かった。
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査（理科）において、記述式で解答する問題の正答率が低かった。

実践の概要

エネルギー領域における理科の見方・考え方を働かせる実践

- ・理科の見方・考え方を働かせて、実験条件と結果（変化）について、「関係付け」「条件制御」「多面的に考える」等の学習活動の充実を図った。
- ・考察をまとめることが苦手な児童に対しては、学習内容と日常生活との関わりについて示唆することで、理科の見方・考え方を働かせて、実験条件と結果で（変化）のもつ意味の理解の促進を図った。

思考したことを整理するための記述力育成の実践

- ・実験の予想や結果の考察においては、実験の目的と結果の関係に着目した分析及び解釈をさせるとともに、ワークシート等への記述などで言語化させることで、記述力を育成した。
- ・言語化が苦手な児童に対しては、児童同士が発したキーワードを手がかりにしながら言語化させることによって、記述力の育成を図った。

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・専科教員との面談等の場面では、アセスメント及びファシリテーションを行う校長としての役割を意識しながら、理科の記述力育成のための学習過程について協議を行い、授業改善について省察、概念化させる機会を設けた。

〔専科教員の取組〕

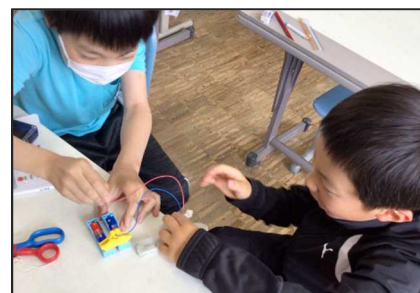
- ・児童のエネルギー領域における理解状況について分析し、授業改善を行った。
- ・記述力が高まるよう、ICTの有効な活用方法を検討した。

成果（ ）と今後の課題（ ）

児童が理科の見方・考え方を働かせて課題解決に取り組む実践により、エネルギー領域の理解が深まった。〔単元テストにおけるエネルギー領域の正答率が90%に向上〕

思考したことを整理するための記述力を育成する実践より、児童が他者意識をもって記述するようになり、思考を広げて日常生活と関連して理科の学びを理解しようとする児童が増えた。〔令和5年度 第2回 厚沢部小学校児童アンケートにおける「理科の授業で観察や実験から、どのようなことがわかったのか考えている」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が84.2%となった。〕

今後、小学校高学年における教科担任制の一層の充実が図られるよう、単元の指導計画を見直し、児童の主体性を育む複線型授業による「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を図る必要がある。



【実験条件の確かめ（電気回路）】



【記述におけるICTの活用】